

令和3年度学校評価結果

		段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった) ※学校全体できているかを評価(教員31名実施)										学校評価委員の意見		
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答				令和3年度の振り返り(成果・課題)・令和4年度に向けての改善策		
								4	3	2	1			
学校運営	開かれた学校づくり	学校運営全般	1	校務分掌における取組み	3.16	3.32	-0.16	6	24	1	0	・学習指導、進路指導において、個に応じた適切な対応ができた。(教務) ・学年と専門部が連携をし、特に生徒指導、進路指導部と緊密に連絡を取り合い、生徒の指導を個別に行うことができた。(3年)	・コロナ感染が収束しない状況で生徒の指導を個別に行うことは大変リスクの伴う事であった。考えられる限り最大限のリスク管理の元対応されることは学校教育の使命であった。今後は低年齢化感染の進行速度が早いオミクロン株への対応について出来る限りリスクハッジを講じてほしい。 ・学習指導、進路指導面において生徒の実情に応じて指導の取り組みを充実させていることと評価したい。生徒に近づき姿勢が不可欠。	
		家庭地域との連携・情報発信	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.45	3.55	-0.10	16	13	2	0	・HPの不要なパーツは削除するなど、トップページの軽量化を図った。随時更新を行い、学校生活の様子や緊急事態宣言を受けての学校活動の変更情報について発信することができた。今後は、部活動や学年のページなどを充実させていくことが課題である。(総務) ・新型コロナウイルス対策として、1年生の学年懇談会をα類型希望者、β類型希望者+コースの二部に分けて行った。早い段階から類型選択を意識させるきっかけとなり、進路意識が高めることができた。(1年) ・新型コロナウイルス対策として、学年懇談会をオンラインで行った。(2年) ・学年懇談会をα類型、β類型、コースの3グループに分けて実施した。また、夏季の三者面談に加え、必要に応じて個別の面談を行い、進路の準備に向けて具体的に話を進めることができた。(3年)	・コロナの影響で、全国的に生徒の学力格差が拡大しているといわれる中、保護者の方々も非常に心配している。学校からの情報発信の充実、このような保護者の安心に繋がる。 ・コロナ禍で制限のある中、開催方法などを工夫して地域貢献活動が行えているようです。2年以上も継続して非常に重要な社会とのかかわりになっていると思います。 ・ホームページがスッキリして見やすくなったと感じた。中学生が高校を選択する際の重要な手段の一つである。クラブ活動の記事は最新のアップロードをして、活気あふれる高校生活を発信してほしい。 ・コロナ禍がいつ収束するか不明なためオンラインによる面談が増えること記載されているが、ただでさえ生徒の真の姿が見えにくい中で苦勞が尽きないと感じる。今後どのように対応していくのか新たな挑戦であるが頑張って取り組んでほしい。 ・やはり3年生となると対面の懇談会が必要となってくるのは必ずですが、大変お疲れ様でした。今後も懇談会自体に感染リスクを抱えて確実事に確保して頂きたい。 ・進路意識を高めるために大学訪問などを実施し大学と何かが身近にわかるように工夫してほしい。また、大学関係者(教授・学生等)との交流も充実させ大学が親しい存在となるように工夫してほしい。淡路地域は大学の存在が小さいだけに交流が求められる。 ・お茶会の開催は難しい状況であるが、来年度はお点前のデモンストラーションなど工夫して行いたい。(茶道部)	
		地域貢献	3	観劇会、ふれあいコンサート、音楽における中高連携、ボランティア活動等の活動において地域に親しまれる学校づくりを行う。	2.81	2.90	-0.10	5	15	11	0	・今年度も観劇会は中止。たそがれコンサートは入場制限を行いながらも実施することができた。募金活動には生徒ボランティアが参加するなど、生徒と教師はよく連携できていた。(総務) ・コロナ禍の制約がありつつも、たそがれコンサートや募金活動など、可能な範囲で活動を実施することができた。(生徒会、吹奏楽部、ギター・マンドリン部) ・お茶会の開催は難しい状況であるが、来年度はお点前のデモンストラーションなど工夫して行いたい。(茶道部)		
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを進展させ自立の意識を高める。	2.87	3.03	-0.16	4	20	6	1	・コロナの影響により活動機会が減っているが、可能な範囲で活動できた。生徒の自主的な取り組みについては、更に改善の余地があるものの、校則の運用について一部具体的な提案ができた。(生徒会) ・15名が企画委員として後期生徒会役員となり、球技大会や体育祭などで意欲的に活動する姿勢が見られた。(1年) ・生徒会の中心メンバーとして活動することができた。(2年) ・体育祭では、生徒たちが学年演技や他の競技に熱心に自ら取り組む姿勢が見られた。(3年)		
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。いじめの積極的認知に努め、組織的に対応する。	3.06	3.16	-0.10	7	19	5	0	・近隣店舗や駐車場でマナーなどについて、地域からの苦情もあり、高校生としての自律的な姿勢の育成が必要であると感じた。スマホの使用も現代においては社会性の一部であり、自律的な向き合い方を身につけさせる必要を感じた。いじめについては、アンケートや相談を通じて概ね早期に対応できているが、関係の修復に時間がかかっているものもあり、保護者との意思疎通についても、より慎重な対応が必要と感じられるケースとなっている。(生徒指導) ・頭髪については指導するべきラインに迷う場面も多く、結果的に生徒への声かけが不十分になる傾向が否めない。(1年) ・スマホやSNSのマナーについてはトラブルを未然に防ぐ意味でも、継続的に意識向上を促す必要があると考える。(1年) ・大きなルール違反をする生徒はいないが、目先の面白さに負けてマナー違反を犯す生徒がいるので、こまめに声掛けをするなど指導していきたい。(2年) ・社会のルールやマナーなどに意識を向けるよう、継続的に指導していく必要があると感じている。(3年)	・十分な準備ができない状態での体育祭や学校行事であったと思います。実施できたことには大きな意義がある。 ・生徒会が活発に活動しているのは大変素晴らしいことである。現状では可能な限り役員各自の提案を汲み取れるのが良いと思う。 ・コロナ禍の制約がある中取り組みがされたことを評価する。地域貢献は学校存在の理由である。地域の人を大事にしてほしい。 ・生徒間のいじめについて相談窓口あるいは担当教師など門戸を大きく広げてほしい。親しみやすい工夫もいる。 ・生徒たちが地域住民と接する機会が少ない。 ・生活面・社会性について講義の時間を設け社会において足りないの意識向上の機会を増やすことが大切である。外部専門家等の講義が必要である。 ・コロナ禍であったとはいえ、文化祭がなくなってしまったのは残念である。体育祭の映像配信は、もう少し生徒に近い距離での映像が欲しい。	
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもつて生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的な理解をはかる。	3.23	3.39	-0.16	10	18	3	0	・教育相談委員会を週1回開き、生徒の情報交換を行った。配慮やケアの必要な生徒が増えてきているが、学年等と連携して個別に対応することができた。カウンセリングマインド職員研修会を開催し、意識の高揚をはかることができたと思う。キャンパスカウンセラーの先生には月2〜3度カウンセリングを行っていただいているが、更なるケアをするためには人手や時間が不足しているように思う。(保健・教育相談)		
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.42	3.58	-0.16	16	12	3	0	・学年、教科と連携し、面接指導、小論文指導、ガイダンスなどの進路指導を行うことができた。(進路指導) ・1学期の段階で1年生対象の進路講話を実施したり、1回目の類型選択予備調査を行うなどして、進路意識を高める取り組みができた。(1年) ・進路指導部と緊密に連携して、進学・就職に向けての準備をすすめることができた。特に、面談や面接練習、小論文指導など細部にわたり実施することができた。(3年)	・コロナ禍で生徒たちが進路などに不安が大きくなっている中、個に応じた対応がとれ生徒や保護者の安心につながっている。 ・毎年改正される入試課題が指導の困難さを増している。個々の生徒に合わせた進路指導はかなりの時間と努力、知識を踏まえた経験が必要かと思われる。 1年生が1学期の段階で意識を改革することは重要である。中学校の延長意識を改め、主体性・自立性を養ってほしい。	
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.16	3.32	-0.16	10	17	3	1	・効果的に進路学習やガイダンスを行い進路実現の意欲を高めた。さらにカリキュラムの中で進路指導の機会を位置づけ、一年から指導したい。(進路指導)		
	教育課程	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	2.87	3.13	-0.26	5	17	9	0	・BYODに向け、ICT機器を活用した授業展開や遠隔授業等、今後さらに研修を重ねられる体制を構築する必要があると考える。(教育工学) ・新課程の実施に向けた教員の研修を実施していく必要がある。(特色化)	・Society5.0に向けた新たな社会で活躍できる人材育成につながる学びであることがより望ましい。 ・情報が次世代の受験科目になる時代になり、より幅広く学習することが必要であるため教員の研修も多々あると感じます。 ・Zoom・オンライン授業などの程度向上しているが、予算補助の充実を求めたい。
			読書啓発	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	3.19	3.45	-0.26	10	18	2	1	・図書館内のレイアウトを少し変更したことで館内が明るくなり、心地よい雰囲気の内へと変わり始めている。心穏やかに読書や学習に取り組むことができるように、次年度も館内整備(図書の配架や見出しの整理等)を進め、さらに利用しやすい図書館づくりを目指す。(図書)	
自ら学び考える力を育成する取組		総合的な探究の時間	11	総合的な学習の時間を通じて、自ら学び考える力や、探求活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.26	3.23	0.03	12	16	2	1	・個人の興味・関心に応じて主体的に取り組んでいた。(教務) ・2学期後半に、RebornProjectの概要を説明し、過去のポスターセッションの作品を見せる機会を設け、来年度の総合的な学習の時間への動機付けを行うことができた。(1年) ・リボンプラットフォームに取り組み、一定の成果をあげ、課題を見つけることができた。(2年) ・2年時に行ったReborn Projectや理科の課題研究は、受験の際に、探究活動を行ったアピールポイントとして、必要不可欠なものであると再確認した。(3年) ・新課程の実施に向けて、これまでの取り組みと新課程での計画を連動させていく必要がある。(特色化)	Reborn Projectは社会に出たから生かされる学びができていたと思いません。コロナ禍で制限も大きいです。いろいろなアイデアでさらに発展していくことを望みます。「朝の読書運動」は大変素晴らしい取り組みとおもって継続して進めて頂きたい。図書の充実を求めたい。県への要望を高める。主体的学習のために継続が求められる学外調剤に？れる機会はあるでしょうか？継続・深化に向けて取り組んでほしい。もう少し？目細かい取り組み内容が不可欠。個人的に指導、助言、対応が必要である。	
		体験的・問題解決学習	12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	2.87	3.00	-0.13	4	19	8	0	・Reborn Projectにおいて、自ら問題解決に取り組んだ。(教務) ・Reborn Projectでの地域課題の解決や、理科課題研究で探究的な活動に取り組むことができた。その他の教科とも連携し、さらに探究的な学習の実施が望まれる。(特色化)		
		適切なカリキュラムの作成	13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	2.97	3.10	-0.13	5	20	6	0	・個に応じたきめ細かなカリキュラム編成ができた。新カリキュラムについては、さらに検討し、必要なら修正を加えて最適なカリキュラム編成を目指す。(教務) ・3学年では、選択教科を多く設定し、進路に合わせて学習できる環境を用意している。(3年)		
基礎・基本の定着		授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	2.87	3.26	-0.39	2	23	6	0	・授業内容を精選し、より効率的な授業展開を目指す。年間指導計画を練り直し検討を加えていく。(教務)		
		指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	3.00	3.19	-0.19	8	16	6	1	・生徒の能力に応じたきめ細かな授業を目指す。1年後半は、類型選択と連動した少人数指導を検討する。(教務) ・知識・理解だけを求める授業だけではなく、主体的に考える授業の機会をさらに増やしていく。(特色化)	・昨年度より評価が著しく低いのは思うような結果が無かったのか、今後の取り組みに期待する。 ・授業に加え生徒が学習内容をどの程度理解しているのか明確につかため工夫が欠かせない。生徒の主体性を向上させてほしい。 ・教員の勤務時間延長による過労問題がある。職員チーム編成等による問題解決が望まれる。	
	家庭学習の習慣付け	16	自発的に課題・予習・復習など家庭学習を行う習慣を付ける指導をする。	2.87	2.81	0.06	7	13	11	0	・「今未来手帳」を有効活用して学習計画と振り返りの習慣をつけるように指導した。(1年) ・具体的な進路について考える機会を増やすようにした。(2年) ・進路実現に向け、積極的な学習の取り組みが見られたが、進路が決定した生徒の学習への取り組みに課題が残った。(3年) ・知識・理解だけを求める授業だけではなく、主体的に考える授業の機会をさらに増やしていく。(特色化)			
課題教育	防災・安全教育	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対処訓練を行う。	3.32	3.19	0.13	11	19	1	0	・防災訓練では、事前に生徒に通知せず、避難経路上に通行不能場所を設定して行うなど、リアリティのある避難訓練を行った。また、防災ジュニアリーダーの発表を通して、校内の防災意識の向上を図ることができた。防災マニュアルについては、生徒と教員が連携して、新たに生徒向けのマニュアルを作成することができた。教員向けの危機管理マニュアルについては、防災訓練で生じた課題や防災に対する最新の知見をもとに、毎年改善していく必要がある。(総務)	・いつ起きてもおかしくないといわれる南海トラフ地震に対し、高い防災意識を持ってもらいたい。 ・必ず起こる南海トラフ地震に対して阪神淡路大震災を経験したこの地から忘れることなく継続して防災教育に注力してほしい。		
	人権教育の推進	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.10	3.23	-0.13	7	20	4	0	・人権映画の鑑賞や人権作文、人権標語の作成を通して、様々な人権課題についての意識づけを行い、正しい人権意識や人権感覚を育む機会を設定することができた。来年度はBYOD環境1年目でもあることから、新入生については早期よりネット関係の人権侵害防止対策を行う必要があると考えられる。(人権)	・人権教育の一環で「LGBT」教育の取り組みがHPで紹介された。今後も継続してほしい。		
	設備・機器の利用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.10	3.16	-0.06	10	15	5	1	・図書館のPCコーナーのレイアウトを変更したことで、広々とした空間でデスクトップPCやタブレットPCがこれまでに以上に利便性があり、またオンライン会議やオンライン集会にも活用している。タブレットを利用した授業も行い、生徒はもちろん教員も気軽に利用しやすくなった。(図書) ・急速なICT環境の整備に対して、利用できるコンテンツの整備が追いついていない。デジタル教材の整備を進めるとともに、授業での活用方法等の職員研修を充実させる必要がある。(教育工学)	・解放的な図書館は利用促進となるので素晴らしい取り組みである。今後もその方針を継続してほしい。 ・図書・教材の充実が課題である。		
	学校特色化	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上を目指した取り組みを行う。	3.19	3.30	-0.11	10	18	2	1	・インスパイアハイスクール事業やREBORN PROJECTを通じて、大学教員や地域で活動される方をお招きした授業を実施することができた。これらの事業と他の教科が連携した授業の模索も、今後の新たな学びの可能性を探るうえで有用であると思われる。(特色化)	・インスパイアハイスクール事業やReborn Projectでは大学教員との連携は必須と思われるので積極的に活用願。 ・生徒の学習意欲はここでもスイッチが入るか予想がつかないので継続して取り組んでほしい。 ・高次の連携の充実を求める。		
全体					3.09	3.28	-0.19					・今後もReborn Projectのような、問題意識を持ち自ら課題を見つけ積極的に解決に取り組むような力を育ててほしい。		